

支店長の わがまち紹介 第89回



鹿 沼 市

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆様との密接な繋がりを持たせていただいております。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。

今回は栃木県鹿沼市です。鹿沼支店長が鹿沼市長 佐藤氏にお話を伺いました。

鹿沼市は第47回(2017年6月)の本コーナーで紹介させていただきました。改めまして、鹿沼市の魅力や特徴、展望についてお聞かせください。

(取材日:2020年10月2日)

■ 困難を乗り越え、笑顔あふれるまちへ

本市の魅力を表す代表的な行事「鹿沼今宮神社祭の屋台行事」は、華麗な彫刻を施した囃子屋台が街中を巡行する400年の歴史を持った伝統行事で、国の重要無形民俗文化財やユネスコ無形文化遺産に登録されています。

通称「鹿沼秋まつり」として毎年10月に開催されており、本来であれば、今頃は至る所からお囃子が聞こえ、本番に向けてまち全体が活気づいているはずでした。しかし、残念ながら今年は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、開催を断念しました。

また、昨年10月の台風19号による記録的な大雨では、堤防が決壊して河川が氾濫したほか、土砂流出や崖崩れ、道路の損壊、冠水等、4年前の関東・東北豪雨を越える甚大な被害が発生しました。現在、復旧・復興に注力しています。



鹿沼市長
佐藤 信氏



鹿沼支店長
百目鬼 卓重

このようなことから今年5月の市長選では、まず第一に新型コロナウイルス感染症対策と台風19号からの復旧・復興を公約として掲げました。

さらに、市民が安心して暮らせる環境を整備するため、防災拠点兼ねた新庁舎の建設を着実に進め、有事に備える体制を早急に整えるつもりです。

振り返ってみると、私が市長になって以降、これまでもリーマン・ショック後の不況や東日本大震災をはじめとする自然災害等、多くの困難がありました。市民の皆様と一緒に着実に乗り越えてまいりました。

すべての市町村で言えることですが、新型コロナウイルス感染症による不況の影響により、来年度

の税収は減少が予想されます。しかし、地域企業への支援や本市の未来に向けた事業は引き続き行っていかなくてはなりません。

非常に厳しい行政運営が続きますが、これまで同様、市民をはじめとする皆様のご協力と私の政治信条である「堅実な財政運営」で、今回の危機も必ず乗り越えられると信じています。

今後も皆様からの大きな信頼と期待に応えられるよう、「笑顔あふれる、やさしいまちづくり」に全身全霊で挑んでまいります。

■ アクセス性に優れた新産業団地

本市は約24haの新たな産業団地の造成を計画しており、令和4年度の方譲予約開始を目指しています。

東北自動車道鹿沼インターチェンジに隣接し、非常にアクセス性に優れているため、予約開始と同時に売り切れそうなほど、既に多くの企業等からお声かけいただき、嬉しい悲鳴をあげています。1日も早く皆様のお声にお応えできるよう、今後も努力してまいります。



新たに造成予定の産業団地

■ 新たな仕組みでまちを活性化

本市はまちの活性化に向け、新たな取り組みを始めています。まずは、本市の東の地区にリニューアルを兼ねた花木センターの道の駅化を検討しています。花木センターはこれまで愛好家達を中心とした市民交流の場として親しまれてきましたが、道の駅にすることで、市民だけでなく、本市へ訪れる観光客の方も楽しめる場所にしたいと考えています。

西の地区では、市内を流れる思川をはじめとする利根川水系の既得用水補給や渇水時の緊急水補給、水道水の確保、洪水調節等を目的に、これまで長きにわたり検討されてきた「南摩ダム」の建設工事が、今年度、いよいよ着工します。

そのため、周辺地区には新たな交流施設等を整備し、誘客につなげたいと考えています。施設のオープンはダムの完成予定時期である2026年に合わせるため、現在、作業を急ピッチで進めています。



南摩ダム完成イメージ図

まずは、キャンプ場を整備する予定です。本市には「出会いの森総合公園」という素晴らしいオートキャンプ場が既に整備されており、本格的なキャンプが楽しめる場所にしたいと考えています。

また、キャンプ場には温浴施設を併設する予定です。予定敷地内で掘削した温泉は、泉質も良く、湯量も豊富なことが確認されました。効能としては、神経痛や筋肉痛、関節痛、冷え性、病後回復、疲労回復、健康増進等が期待できます。

市民や専門家の意見や提案を取り入れ、食事が楽しめて、お土産等の購入もできる温浴施設とする予定です。ぜひ、家族や友人、恋人と訪れ、自然豊かな場所でキャンプと温泉を楽しんでいただきたいと思います。

さらにJR鹿沼駅周辺の整備を進めています。まずは、駅東口の都市計画道路の整備を進めます。東口側からも駅の利用が可能になることで、交通量の分散や駅へのアクセス性が向上し、通勤時の渋滞解消、駅利用者や駅東地区住民の利便性の向上が期待できると考えています。

また、歩道のない狭隘な道路等を再整備し、カラー舗装を行うことで道路を美化するとともに、歩道を分離し、通学時の児童や生徒をはじめとする歩行者の安全な移動スペースを確保します。

さらに、老朽化した自転車駐車場の修繕、駅前広場や駅東西の自由通路の整備等を検討しており、すでに周辺地区が脚光を浴びています。

これらにまちなかの新庁舎を加え、市全体を回遊できるような仕組みにしたいと考えています。

■ 品質に妥協せず、ブランドを守る

栃木県は作付面積や収穫量、産出額等、全国一の「いちご王国」です。その中でも本市のいちご生産の歴史は古く、その品質は「日本一」との市場評価を得ることも多いため、2016年7月には市の果実をいちごに制定し、「いちごいちえ」を



かめまのブランドのとちおとめ

キャッチコピーに「いちご市」を宣言、いちごのまちのPRに力を入れてまいりました。

本市のいちごは常に高値で取引されるため、需要の高い首都圏に多く出荷されています。とてもありがたいことですが、その反面、「鹿沼市の美味しいいちごは高価で、鹿沼市内では簡単に購入できない」というイメージがあるようです。

本市内に所在する観光いちご園では、「とちおとめ」や「スカイベリー」、「とちひめ」等のいちご狩りが楽しめるだけでなく、市場と同等の品質を持つ美味しいいちごを手ごろな価格で購入することができます。今後はいちご園をさらにPRし、誘客につなげたいと思っています。

新型コロナウイルス感染症は各地の農業にも影響を与えました。大型観光農園では、観光客が訪れなくなり、大幅に収入が落ち込んだようですが、幸い、本市の観光いちご園は、規模の追求ではなく、手間をかけ、品質にこだわった家族経営の観光いちご園が多数を占めていたため、大きな被害は免れました。

つい最近、県からいちごの共同選果場に参加しないかという話がありましたが、本市は参加しないことを決めました。必ずとは言えませんが、規模を追求していくことは、品質の低下につながる可能性があると考えています。そのため、小規模でも品質に妥協しない従来のスタンスで、ブランドを守っていくつもりです。

■ 林業大学の誘致で林業を活性化

東京オリンピック・パラリンピックを前に建設された国立競技場には、多くの杉材が使用されました。競技場外周部のスタンド観客席を覆う大屋根や軒ひさし部分の起点となった第1番目の杉材は本市の森林認証材です。国を代表する施設の起点に使用されたことは大変光栄で、本市の関係者も

非常に感激していました。バレーボール等の会場となる有明アリーナでも屋根構造材として丸太約1,700本分の本市の杉材が使用され、選手村ビレッジプラザの建設でも、原木丸太180本分の杉材を納めました。今後も木材の需要拡大をさらに進め、森林認証の取り組みを続けていきたいと考えています。

全国的に林業の担い手不足が指摘される中、林業従事者の確保や育成に向けた研修機関を設置する県が増えています。栃木県でも、昨年12月、福田知事が林業技術等を学ぶ県版の林業大学校設置を検討していく方針を明らかにしました。

既に本市には、林業の担い手の育成を図るとともに、県民が森林や林業について学ぶことができる宿泊可能な施設、「21世紀創造の森」が所在しています。しかし、私は昨年台風19号の被害を受け、改めて山林管理の重要性を痛感し、さらなる担い手の確保や育成の取り組みが必要であると考えていました。また、本市には鹿沼認証材があり、林業を代表するまちといえば本市であると自負しています。そのため、今年1月、日光市とともに、林業大学校の設置の要望書を県に提出しました。ぜひ、大学を誘致して、林業の活性化につなげたいと考えています。



鹿沼産森林認証材のスギ

■ 筑波銀行に期待することをお聞かせください

筑波銀行には地域経済の大動脈を担っていただき、大変感謝しています。

現在、新型コロナウイルス感染症の問題から、市内の各事業所では厳しい面が続いています。ぜひ、金融面での支援や経営の指導、あるいは情報の共有等、引き続き地域の産業振興のためにお力をお貸しいただければ、大変心強く思うところです。

写真提供：鹿沼市